

平成 25 年 9 月 18 日

秩父市議会議長 浅海 忠 様

文教福祉委員長 笠原 宏 平

文教福祉委員会行政視察報告書

- 1 期 日 平成 25 年 8 月 6 日 (火) ～8 日 (木)
- 2 視察先 佐賀県武雄市、長崎県雲仙市、長崎県佐世保市
- 3 参加者 委員長 笠原 宏平 副委員長 小池 治
委員 木村 隆彦 委員 高野 宏
委員 山中 進 委員 大久保 進

4 視察目的

佐賀県武雄市 「市民病院の民営化について」
「民間企業に運営業務を委託した市立図書館について」

○ 市の概要

武雄市は平成 18 年に旧武雄市、旧山内町、旧北方町の 1 市 2 町が合併して誕生しました。佐賀県の西部に位置し、人口 52,000 人あまりの歴史ある温泉と「やきもの」の街です。里山に囲まれた美しい景観と懐かしい風景がたくさん残っています。花、新緑、紅葉と四季折々の姿を見せてくれる里山、あちこちに残る長崎街道沿いの古いたたずまい、そんな武雄の風景が「佐賀のがばいばあちゃん」や「はだしのゲン」のドラマロケ地に選ばれ、郷愁をそそりました。また、古くから交通の要衝として発展し、近年は高速交通網の整備に伴い、武雄を横断する長崎自動車道には 2 つのインターチェンジがあり、近い将来には九州新幹線西九州ルートの開業が予定されているなど、交通の利便性に恵まれ暮らしやすい地域です。

○ 事業の概要

「市民病院の民営化について」

自治体が運営している市立病院の多くが頭を悩ませている、赤字の問題と医師不足の問題を、武雄市では平成 22 年 2 月 1 日より北九州市の医療



法人財団である池友会グループへ民間移譲され、現在では救急医療も再開され、市民の安心医療を守る事ができています。

「民間企業に運營業務を委託した市立図書館について」

進展する高齢者社会の中で、武雄市立図書館を、豊かな生活を実現するための中核的な施設として、より市民価値の高い図書館・歴史資料館にするため、指定管理者制度を活用し TSUTAYA 等を経営しているCCC（カルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社）に運營業務を委託されました。「代官山 蔦谷書店」のコンセプト及びノウハウを導入し、蔦谷書店と図書館の良さをミックスさせるため、CCCに委託したということです。居心地の良い空間で本の素晴らしさを体験してもらうことを目的に運営されています。



長崎県雲仙市 「障がい者の自立支援事業の一環である瑞宝太鼓について」 「市立保育所の民営化について」

○ 市の概要

長崎県南東部に位置している雲仙市は、平成17年10月に旧国見町、旧瑞穂町等の7町が合併して誕生しました。スポーツ振興、特にサッカーに力を入れており、市内にある県立国見高等学校は全国高等学校サッカー選手権大会における強豪校として全国に知られています。雲仙市の位置する地域は、橘湾や有明海を望む美しい海岸線や、普賢岳、雲仙地獄といった雄大な自然環境を有しており、雲仙天草国立公園は日本で最初に国立公園として指定された公園の1つであります。

○ 事業の概要

「障がい者の自立支援事業の一環である瑞宝太鼓について」

瑞宝太鼓は、雲仙市内にある「社会福祉法人 南高愛隣会」が運営している事業です。1987年に「長崎能力開発センター」（知的障害者職業訓練施設）のサークル活動として瑞宝太鼓が発足しました。練習を重ね、海外公演など多数のイベントに参加し力をつけていく中で、2001年にプロの和太鼓集団「職業技能集団 瑞宝太鼓」として独立、2007年に就労継続支援事業A型へ移行し、自立した社会生活を目指し精力的に活動しています。現在は年間100回以上の公演のほか講習活動等も行っており、予約が殺到しているそうです。



「市立保育所の民営化について」

雲仙市では、平成19年3月に策定した「雲仙市行政改革大綱」並びに「雲仙市集中改革プラン」に沿って「民間にできることは民間にまかせる」ことを基本に事業が行われており、多くの保育所が民営化されています。少子化や核家族化の進行、地域における連帯感の希薄化などに、多くの家庭が子育てに対して不安感や負担感などを抱いており、子どもや子育て家庭への支援は社会全体で緊急に取り組まなければならない重要な課題となっている中、子育て支援の重要な役割を担っている保育行政も、多様化する保護者のニーズへ柔軟に対応するため、延長保育や一時保育、休日保育などサービスを充実させることはもとより、限られた財源の中で有効かつ質の高い運営が求められています。そのニーズに柔軟に対応するために、行政運営の見直しが行われました。財政負担の適正化と運営の効率化を図りながら、全市的に子育て支援や子育て環境を充実させていくことを検討され、その結果として、土黒保育所についても民営化することが決定されました。

長崎県佐世保市 「保幼小連携接続カリキュラムについて」

○ 市の概要

佐世保市は、長崎県の北部地方に位置しており、北部の中心都市で、長崎市について2番目に人口の多い都市です。県庁所在地ではない「非県都」としては比較的大きな規模を持つ都市であり、国から特例市及び保健所政令市の指定を受けています。旧海軍の軍港が置かれた港町であり、現在もそれを受け継いだ造船および国防の町として知られており、日本最大級のテーマパークであるハウステンボスに代表される観光都市でもあります。

○ 事業の概要

幼児教育の更なる充実を図るため、佐世保市の全ての保育所・幼稚園と小学校の先生方が検討を重ねた結果、県内初の「保幼小連携接続カリキュラム」が作成されました。全国的に見ても先進的な取り組みといえるものです。5歳児後半から小学校入学後1学期までを接続期と呼びますが、その接続期の子ども達が保育所・幼稚園の遊びを含んだ教育から、学習を中心とした小学校へと環境が変わるときに、「生活の接続」と「学びの接続」を考える必要があります。そのため、「保幼小連携接続カリキュラム」を活用して、保育所・幼稚園と小学校の滑らかな接続を考え、お互いに理解し見通しを持った保育・教育が進められるよう、保育者及び教職員等の指導の目安として作成されました。

【公共施設の民営化と指定管理者制度 笠原 宏平】

今、話題になっている佐賀県武雄市の取り組みを視察してまいりました。

まずは、市民病院を視察しました。毎年の累積赤字と医師不足、それに伴い救急医療もできない状態の市民病院の三重苦をどのように解決するかを検討した結果、民間の医療機関に移譲することにしたそうです。民間移譲までの道のりは厳しいものがあったそうです。

市民病院の民営化を巡って市長と議会・医師会が対立し、市長のリコールという事態にまで発展しそうな矢先に、市長自ら辞職し、平成20年12月に再び市民の信を得て当選し市民病院の民営化になったそうです。

平成20年7月に公募した民間医療法人財団 池友会へ平成22年2月1日に譲渡する議案が可決された為、同年8月より救急医療が再開されています。移譲される間に「社団法人巨樹の会」が追加され、平成22年2月より「社団法人巨樹の会 新武雄病院」に移譲されました。市民の皆様もサービスの改善がみられ、非常に満足されている様でした。

次に市立図書館を民間指定管理者に運営を任せたものを視察しました。平成24年5月にCCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）と基本合意の締結を行い、進展する高齢社会の中で、豊かな生活を実現するため市民に価値の高い施設として運営するにあたり、「代官山 蔦屋書店」をコンセプトとし、市民が利用しやすい施設にしたもので、図書館内を案内して頂いた感想は、スペースが広く、コーヒー屋さんも有りゆったりと過ごせる本屋であり図書館でありました。本を好きになる市民が多くなると思った次第です。

【保幼小中一貫教育カリキュラムの構築 小池 治】

文教福祉委員会の重要課題の1つに、「少子化に伴う中長期的課題としての学校運営」がある。人口変動などを伴うので、施設などハード面の対応も長期展望に立つべきことは勿論であり、もう一方がソフト面の課題である「効率的な教育カリキュラム構築」だと思う。

昨年の視察では、奈良市田原小中学校における「小中一貫教育」の実態を見せていただき大変参考になった。今年は系統だてて、佐世保市における「保幼小連携接続カリキュラム」について、まず見せていただいた。

佐世保市では、全ての保育所・幼稚園と小学校の先生方の協力を得て、県内で初めて「保幼小連携接続カリキュラム」を作成した。平成22年度から「保幼小連携協議会」を立ち上げ、保育所・幼稚園の園長、小学校の校長会の代表で議論開始、進行に応じ、小学校の1年生担任も参画するなど積極的な巻き込みをはかり、平成24年12月に完成をみる。この紙面では詳細は述べられないので、昨年続き、項目のみ報告したいと思います。事前に質問項目を送付するなどして、費用面、市当局の関与の程度、カリキュラムの増加による保育士、職員等の負担はどうだったかなど、資料も多く入手しています。私としてはこの案件につき導入をぜひ検討して頂きたいと考えております。

前回同様、写真が紙面の都合で掲載できず、また、「市民病院の民営化」「運営業務を民間委託した市立図書館」、社会福祉法人「南高愛隣会」の瑞宝太鼓、市立保育所の民営化など、今後の活動の参考となる事例を多く吸収できた視察でした。

【社会福祉法人南高愛隣会を視察して 木村 隆彦】

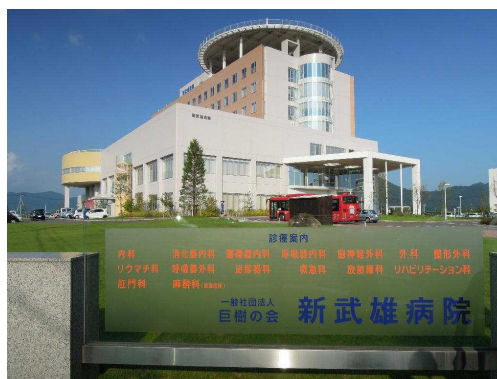
今年3月、社会福祉法人清心会の30周年記念のイベントとして、社会福祉法人南高愛隣会の瑞宝太鼓を聞かさせていただきました。この団体のメンバーは、障がい者施設で生活をしていました。この太鼓のメンバーに興味を持ち、今回視察を行いました。

この団体のメンバーは施設で生活をする中で、和太鼓クラブができ太鼓の大好きなメンバーが集まりました。そして、いつの日か自分の仕事を辞めて仕事としての和太鼓を始めました。そして夢を抱きプロの集団として瑞宝太鼓を結成しました。メンバーは就労継続支援A型として生活を行っています。現在プロの和太鼓集団として全国各地を訪問し、自分たちの腕前を披露しています。東日本大震災の被災地である東北地方においてもコンサートを開催し、また、少年院での公演を開催し社会貢献も行っていきます。そのメンバーに直接会い、和太鼓の披露をしていただきました。メンバーの中には、結婚し家庭を築いるメンバーもいます。障がい者が理想とする「ふつうの場所で普通の暮らし」を行っています。今まで障がい者として施設やグループホームで生活してきたが、太鼓という自分たちの趣味を突き進め職業として成り立たせているという現状を視察させていただきました。



【市民病院の民営化について、ほか 高野 宏】

今回の文教福祉委員会行政視察においては、3市5か所の施設等を訪問し担当職員よりの詳細な説明を受けました。特に佐賀県武雄市では、市民病院の民営化、市立図書館の民間企業への運營業務委託等を2日間にわたり視察研修をさせていただき、担当職員の説明と全国的に知られている樋渡武雄市長にも両日にわたり、民営化等の経緯を詳しく説明いただきました。平成18年樋渡市長就任時の武雄市民病院は、未曾有の累積赤字と極度の医師不足、救急救命医療ができないという状況であり、このことを迅速に解決し、市民の健康と命を守るため、民間移譲を決意したとのことです。武雄市民病院の民間移譲には、大変な議論がおき、市民全体を巻き込んだ問題になり、長期間にわたり審議され平成20年武雄市議会で可決され、その後、社団法人巨樹の会が新武雄病院としてスタートし、平成23年には新病院も完成して、ヘリポートも備えた、24時間、365日対応できる地域医療の核となる病院となりました。病院の見学もさせていただきましたが、看護学校、リハビリ専門学校等も併設され、医療施設群を形成して、医療を中心にしたまちづくりを目指すとのことです。今回、武雄市長の、市政に対する大胆とも思える施策を拝聴でき、有意義な行政視察でした。

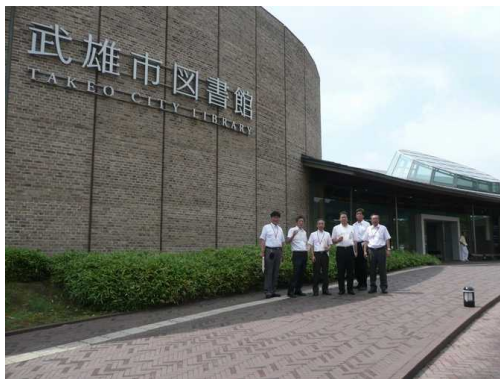


地域医療の核新武雄病院

【市民・住民の望む方向と民間活力の導入 山中 進】

文教福祉常任委員会の視察として考えさせられた内容であった。そこに暮らす市民や多くの住民地域が安心して利用できる図書館、診てもらえる病院、預けられる保育所など出来る事は民間でという考えもあろうが、住民の皆さんの健康とくらし、文化はその自治体が責任を持って提供する事が基本ではないかと思うところです。なぜなら、仮に企業が参入し収益や儲からなければ撤退してしまうと云う現実があるからです。安易な考えで民間活力でという発想は市民の願いに逆行しないか。

秩父郡という圏域の中でも拠点としての役割をはたしている秩父市は、率先して自治体としての使命をリードしうる立場であることを実感として受け止めてきました。



【武雄市を視察して 大久保 進】

市立図書館を TSUTAYA と連携し新図書館づくりに成功して有名な武雄市に伺いました。

入って始めに思った事はこれが図書館かという印象でした。図書館にこれほどの人がいる印象が私にはありませんでした。入館してコーヒーのいい香りと活気ある店内に驚きです。武雄市長の樋渡氏はあるテレビ番組を見て、蔦谷書店を紹介する番組を見て、図書館は無料貸本屋ではない。居心地のいい空間で本の素晴らしさを体験してもらうために、蔦谷書店と図書館の良さをミックスしたいと考えた。そこで TSUTAYA の社長と会い図書館への協力を依頼した。TSUTAYA の社長はその場で快諾し現在に至っている。

この制度を実施した事による市民価値は10万冊から20万冊の図書に出会える、カフェダイニングの導入、Tポイントの導入、365日の開館等色々あります。入館者数は前年に比べ386%の増加、貸出本は186%の増加と過去最高の結果を出している。利用者は市内45%市外55%という驚きの数字である。この方式を我が秩父市でもできるか検討すべきであると思う。秩父市の利用者の声は休日に開館してもらいたい、時間を遅くまでやって欲しいというのが私のよく聞く声であります。

